

10 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

- 所長の横村でございます。本日は、私の方から 4 点申し上げます。
- まずは、プラントの状況についてです。

7 号機におきましては、先月、高感度オフガスモニタの指示値が上昇し、漏えい燃料が発生したことを確認しましたが、その後、出力抑制法により燃料からの放射性物質の漏えいを抑制し、定格熱出力一定運転の状態、各種運転パラメータに問題がないことを評価いたしました。

現在、定格熱出力にて継続的に安定運転を行っております。

5 号機につきましては、原子力安全・保安院及び原子力安全委員会において、それぞれプラントの起動について安全上の問題はないことの評価をいただき、当社から地元自治体へ運転再開のお願いをさせていただいております。今後、新潟県の技術委員会において審議をいただき、地元自治体のご意向を踏まえながら、適切に対応してまいります。
- 2 点目は、当社の中長期成長宣言 2020 ビジョンについてです。

当社では、先月 13 日に 2020 年までの中長期的な成長宣言をお示しいたしました。今回のビジョンにおいては、「低炭素時代をリードする」という新たな社会・環境貢献を追求し、それを企業収益と両立させることにより、持続的に成長していくことを経営指針とし、「社会の信頼を大切に」「未来を切り開く」「人と技術が活きる」の 3 つの指針の下、7 つのプランをお示ししております。

この 7 つのプランのうち最初のプランとして「ゼロ・エミッション電源を積極的に導入する」を掲げておりますが、原子力発電は発電時に二酸化炭素を排出しないゼロ・エミッション電源の中核を担う電源であり、既設プラントの利用拡大や新增設計画など、地域の皆さまのご理解を得ながら着実に推進していくこととしております。

当所としましては、今後も安全を第一としたプラント運営と災害の未然防止に努めながら、安全と品質の向上に弛まぬ努力をしております。

こうした取り組みを通じ、地域の皆さまとともに歩み、信頼していただける発電所となるよう努めてまいります。
- 3 点目は、低炭素化への取り組みとして、発電所内での電気ボイラーの採用拡大についてです。

発電所の設備面からの低炭素化へのアプローチの一つとして、このたび重油ボイラーに替え、電気ボイラーを採用することいたしました。

発電所構内には、1～4 号機用として荒浜側に重油ボイラー 3 台、電気ボイラー 1 台、5～7 号機用として大湊側に電気ボイラー 3 台を有しており、プラントの起動・停止や、発電所建屋内の暖房用としての蒸気を供給するための発電所の補助施設として重要な役割を担っております。このたび、荒浜側の 1～4 号機用で使用している 3 台の重油ボイラーに替え、2 台の電気ボイラーを新設することいたしました。本年 10 月 6 日より建屋の基礎工事に着手しており、平成 25 年 5 月の使用開始に向け、建設工事を進めているところです。

これまでの重油ボイラーでは、使用に伴い年間にCO₂が約4,000 t発生しておりますが、電気ボイラーを採用することにより、これをほぼ全量削減することができ、発電所としての低炭素化の実現に向けた取り組みの一つとして寄与するものと考えております。

また、電気ボイラーは、重油ボイラーに比べ構造がシンプルで、メンテナンス性や運転性に優れており、加えて、重油を使用しなくなることにより危険物の保有量が減少し、災害の発生リスク低減にもつながるものと考えます。

今後も発電所の復旧に全力を尽くすとともに、運転プラントの安定的な稼働に向けて取り組み、低炭素化の実現を目指してまいります。

○ 4点目は、地域貢献活動についてです。

当所においては、東北電力さんと合同で、明日、地元自治体である柏崎市、刈羽村、出雲崎町へ街路灯の寄贈（目録の贈呈）を行うことにしております。

この取り組みは、昭和50年から「明るい街づくり運動」への協力の一環として毎年行っているもので、昭和58年からは東北電力さんと合同で実施してきております。

街路灯の設置につきましては、地域の皆さまからのご要望も高く継続的に行っているもので、これまでに約2,700基を寄贈させていただきました。3年前の中越沖地震後には仮設住宅にお住まいになられている方々の地域へ約150基の街路灯の寄贈などをしております。今回は、東北電力さんと当社で合わせて約90基の蛍光灯やLED防犯灯を寄贈する予定です。

発電所としては、明るい街づくりへの協力や防犯の観点からも地域の皆さまへ少しでもお役に立てればと考えております。

○ 本日、私からは以上です。

以上

添付) 柏崎刈羽原子力発電所DATA BOX
プレス公表 (運転保守状況)

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成22年10月)

平成22年10月14日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況										補足説明
			11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	運転中	第15回 H19.5.4～H22.8.4 停止期間 H19.5.4～H22.6.6(1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第15回定期検査による停止										
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中	第11回 H17.9.3～H18.5.9 停止期間 H17.9.3～H17.12.25(114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定期検査による停止										
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中	第9回 H18.5.12～H18.9.15 停止期間 H18.5.12～H18.7.27(77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定期検査による停止										
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中	第9回 H18.4.9～H19.1.11 停止期間 H18.4.9～H18.12.14(250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定期検査による停止										
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中	第11回 H17.7.4～H17.11.2 停止期間 H17.7.4～H17.10.8(97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定期検査による停止										
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	運転中	第8回 H19.5.24～H22.1.19 定検停止期間:H19.5.24～H21.8.31(831日) H21.12.26～H22.1.8(14日) (原子炉起動H21.1.6)	不具合調査のため計画停止										
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	運転中	第9回 H22.4.18～H22.7.23 H22.4.18～H22.6.28(72日) (原子炉起動H22.6.26)	第9回定期検査による停止										
			1 燃料取り替えのため計画停止										【7号機】 ・10月1日、漏えい燃料周辺の制御棒6本を挿入した状態で、定格熱出力一定運転を開始。(お知らせ済み)

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%)

(9月末現在)

9月	44.1%
22年度累計	34.9%
運転開始後累計	65.1%

③ 発電所発電電力量(万kWh)

(9月末現在)

9月	260,885
22年度累計	1,258,064
運転開始後累計	82,962,325

④ ドラム缶発生量(本)

(H22年度第1四半期)

当期発生本数	1,021
貯蔵庫累積貯蔵本数	29,577
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	12,820
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 構内従業員データ(人)(10月1日現在)

	東京電力	協力企業	比率	
県内	柏崎市	868	2,800	50%
	刈羽村	82	299	5%
	その他	104	1,069	16%
	小計	1,054	4,168	71%
県外	100	2,070	29%	
合計	1,154	6,238	—	
		7,392	100%	
協力企業社数(社)		883		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が合わない場合がある。

⑦ 来客情報(人)(9月末現在)

	9月	年度累計
地元	992	10,022
県内	1,368	8,779
県外	3,887	17,630
国外	62	380
合計	6,309	36,811

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
10月16日	柏崎・夢の森公園で「森づくり活動」!! (柏崎・夢の森公園)
10月19・26日	フラワーアレンジメント教室 (柏崎エネルギーホール)
10月20日	寄せ植え体験教室と発電所構内バス見学会 (き・な・せ)
10月23日	Comfy サイエンススクール (カムフィー)
11月11日	次回定例所長会見予定
12月12日	とうでん 今・話・会 (柏崎市民プラザ 海のホール) 「整理収納術 ～お正月をすっきり迎える～」講師: 飯田 久恵

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成22年10月14日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	9月10日	7号機	気体廃棄物処理系の高感度オフガスモニタの指示値上昇について (区分Ⅲ)	<p>(事象の発生状況) 定格熱出力で一定運転中の7号機において、平成22年9月10日午前0時12分頃、燃料棒から原子炉水への放射性物質の微少な漏えいを早期に検知するために気体廃棄物処理系に設置した高感度オフガスモニタの指示値が、通常値約1 cpsとところ1.8cpsに上昇したことから、警報が発生しました。 これまでに、排ガス放射線モニタの指示値に変動はないものの、高感度オフガスモニタの指示値は、本日午後3時時点で約27cpsと微増傾向にあり、原子炉内で漏えい燃料が発生した可能性が考えられることから、現在、関連パラメータの監視を強化しております。</p> <p>(安全性、外部への影響) ガス状の放射性物質については気体廃棄物処理系で減衰処理されており、排気筒モニタやモニタリングポストの指示値に変動は見られないことから、外部への放射能の影響はありません。本事象は法律に基づく報告対象ではありません。</p> <p>(対応状況) 関連パラメータの監視強化として、原子炉水中のヨウ素濃度および気体廃棄物処理系のキセノン133濃度の分析を1日1回、排ガス放射線モニタ指示値および排気筒モニタ指示値の確認を1時間に1回実施します。 なお、今後、高感度オフガスモニタの指示値に有意な上昇が確認された場合には、一時的に出力を降下させて、漏えい燃料を特定するための調査を行い、漏えい燃料の近傍にある制御棒を全挿入状態として放射性物質の原子炉水への漏えいを抑制いたします。 また、現在、公表している原子炉水の分析結果や、排ガス放射線モニタの指示値に加え、高感度オフガスモニタの指示値についても、今後、毎日午後4時に発電所のホームページで公表してまいります。</p>
②	9月17日	7号機	気体廃棄物処理系の高感度オフガスモニタの指示値上昇に関する調査状況について (区分Ⅲ) 続報	<p>(事象の発生状況) その後、関連パラメータの監視強化を行いながら運転を継続しておりましたが、9月16日午後9時30分頃から、高感度オフガスモニタの指示値に有意な上昇（最大約2,100cps）が確認されたことから、同日午後10時43分に、原子炉内で漏えい燃料が発生しガス状の放射性物質が原子炉水中に漏れ出したものと判断しました。 このため、放射性物質が漏れ出した燃料集合体の位置の特定に関する調査を行うこととし、同日午後11時30分から、プラント出力を約72万キロワットまで降下させる操作を開始しました。 その後、9月17日午前3時35分から、原子炉が安定した状態で制御棒を操作し、放射性物質が漏れ出した燃料集合体の位置の特定に関する調査を開始しております。 この燃料集合体の位置の特定作業は、1週間程度を予定しております。</p> <p>(安全性、外部への影響) ガス状の放射性物質については、気体廃棄物処理系で減衰処理されており、排気筒モニタやモニタリングポストの指示値に変動は見られないことから、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>(対応状況) 当該燃料集合体の位置が特定された場合は、近傍の制御棒を全挿入状態として、放射性物質の原子炉水への漏えいを抑制した上で、再びプラント出力を定格熱出力に戻すこととしております。</p>
③	9月24日	7号機	気体廃棄物処理系の高感度オフガスモニタの指示値上昇に関する調査状況について (区分Ⅲ) 続報	<p>(事象の発生状況) 漏えい燃料が装荷されている範囲（以下、当該範囲）を特定するための調査を実施した結果、制御棒(22-15)およびその周辺の制御棒を操作した際に、高感度オフガスモニタ指示値の変動が大きいことが確認されたことから、漏えい燃料は制御棒(22-15)周辺にあるものと推定いたしました。 その後、9月22日に、万全を期すために当該範囲の近傍にある制御棒も含め、全6本を全挿入状態として、漏えい燃料からの放射性物質の漏えいを抑制しており、現時点の高感度オフガスモニタの指示値は約20cps（9月24日午後1時時点）で、プラントの状態は安定しております。 このため、当該範囲の近傍にある制御棒6本を全挿入し、放射性物質の原子炉水への漏えいを抑制した状態で、本日午後4時より、プラントの出力上昇操作を行い、出力を定格熱出力まで上昇させて、出力抑制法による効果を確認する予定です。</p> <p>(安全性、外部への影響) ガス状の放射性物質については、気体廃棄物処理系で減衰処理されており、排気筒モニタやモニタリングポストの指示値に変動は見られないことから、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>(対応状況) 今後、高感度オフガスモニタおよび関連パラメータの監視を強化しながら、安全を第一に慎重に運転を行ってまいります。</p>

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成22年10月14日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
④	10月5日	7号機	柏崎刈羽原子力発電所7号機における漏えい燃料発生の原因および今後の対応に関する報告について（区分Ⅲ）続報	<p>当社は、平成22年9月10日に柏崎刈羽原子力発電所7号機において発生した、漏えい燃料発生の原因および今後の対応について、本日、経済産業省原子力安全・保安院ならびに新潟県へ報告いたしましたのでお知らせします。</p> <p>漏えい燃料が発生した原因について調査した結果、異物を原因とする、発生時期や発生場所が予測できない事象と推定いたしました。また、出力抑制法の効果について評価した結果、7号機は定格熱出力状態においても、高感度オフガスモニタなどの関連パラメータに異常はなく、安定して推移していることから、漏えい燃料近傍の制御棒を挿入した状態で運転継続することに安全上の問題はないものと判断いたしました。</p> <p>このため当社は、今後も出力抑制法により原子炉水への放射性物質の漏えいを抑制し、引き続き、関連するパラメータを監視しながら、慎重に運転を継続してまいります。</p> <p>なお、次回定期検査等で原子炉を停止した際は、原子炉内に装荷されている全ての燃料について SHIPPING 検査を実施し、漏えい燃料を特定して健全な燃料に取り替えるとともに、特定した漏えい燃料について詳細な点検を行うことといたします。</p> <p>また、漏えい燃料発生に関する抜本的な対策として、今後、捕捉効率を大きく高めた異物フィルタを開発して計画的に導入していくとともに、引き続きこれまでの漏えい燃料発生の低減対策を徹底してまいります。</p>
⑤	10月5日	7号機	柏崎刈羽原子力発電所での発煙の発生について（区分その他）	<p>（第一報～第三報）</p> <p>本日、当所において発煙が発生したことから、消防署へ連絡を行いました。消防の現場確認により、17時10分に火災ではないとのご判断を頂きました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発生場所 7号機トラベリングスクリーン 現場中継端子箱 ■屋外 ○発生時間（当社確認時間） 16時20分頃 ○状況 ■発煙 ○消防連絡時間 16時20分頃 ○消防署による判断有無 17時10分 ■火災でない ○当該プラントの運転状況 ■対象外（屋外など） ○現時点における外部への放射能の影響 ■無し ○負傷者の有無 ■無し ○自衛消防隊の出動 ■無し ○備考（補足事項） <p>消防署による現場確認により「消火活動を行っていないこと、現場に焦げあとがないことおよび火災がなかったとの証言を得たこと」から17時10分に火災ではないとのご判断を頂きました。</p> <p>（対応状況）</p> <p>端子箱の扉のパッキンが劣化したことにより、端子箱内の底部に塩分を含んだ水が溜まり、端子箱底部に設置されていた予備スイッチ端子部のケーブル接続部がショートしたものと推定しました。このため、端子箱内に塩分を含んだ水が浸入しないようにパッキンの交換および電線管貫通部のシール処理を再度行いました。</p> <p>予備スイッチ端子部は今後の使用予定を検討した結果、撤去しても問題ないことが確認できたため、計画的に撤去いたします。</p> <p>また、塩分を含んだ水の浸入を防ぐ構造の機能が維持されていることを定期的に確認いたします。</p>